

<b>授業科目名:</b> 学内実践実習		<b>単位数</b> 2 単位	<b>担当教員名:</b> 専任教員
			<b>担当形態:</b> 単独
<b>配当年次:</b> 1 年次後期 2 年次前期・2 年次後期	<b>授業形態:</b> 実習	<b>開講形態:</b> 各大学独自開講	
<b>授業のテーマ及び到達目標:</b> インターシップの候補先の機関・企業に行けない社会人学生を対象にした実習科目である。三大学の他の研究科の教員の研究室でラボワークを行う。主な目標は、実社会に通用する高度な研究能力を持つ博士人材としての基盤を形成することである。具体的には、自身の意見を異分野の専門家に的確に伝達するために重要となる、エビデンスに基づいた論理性のあるコンテクスト化及びプレゼンテーション技法の向上を目指す。			
<b>授業の概要:</b> 受講生は自らの関心とこれまでの業務実績を踏まえ、三大学の共同専攻以外の研究科の教員の研究室で行うラボワーク(30 コマ相当)を通じて、異なる分野の発想や社会実装アプローチを学ぶとともに、異質の研究環境における適応力及びコミュニケーション力を磨く。			
<b>授業計画:</b> 企業秘密や年休取得の時期的限定等、複雑な事情が存在し、インターシップの候補先の機関・企業に行けない社会人学生は、三大学の他の研究科の教員の研究室でラボワークを行う。主指導教員が学生の専門や将来の希望進路、研究テーマを考慮して、副指導教員等から支援を受け、学生とも綿密に協議し、受け入れ先の教員とも相談しながら計画を立てる。 ラボワークのテーマは、指導教員、学生、受け入れ先の教員が協議して決定する。学生は計画書を作成し、主指導教員と受け入れ先の教員から承認を得なければならない。ラボワーク中、学生はレポートを適宜に作成し、受け入れ教員からコメントを得ることが求められる。 ラボワーク終了後、研修内容及び成果を取りまとめた報告書(A4・5枚程度)を主指導教員に提出する。さらに、「サステナビリティ研究先端演習Ⅱ～Ⅳ」の文理協働コロキウムにおいて、博士論文研究の進捗状況等とともに、ラボワークの研修内容及び成果を報告することが求められる。 各指導教員の専門分野は以下のとおりである。 <b>【東京外国語大学】</b> (武内進一)地域動態論、アフリカ研究、国際関係論、紛争 (中山智香子)グローバルスタディーズ、社会経済学、社会経済思想、経済史、経済人類学 (李孝徳)カルチュラル・スタディーズ、表象文化論、ポストコロニアル理論 <b>【東京農工大学】</b> (千年篤)国際農業開発、農業発展論、農業経済学、所得格差、貧困 (野村義宏)生物資源機能化学、コラーゲン、ケラチン、機能性食品 (香取浩子)エネルギー科学、磁性体における相転移現象、局在スピン系磁性、遍歴電子系磁性 (三沢和彦)生体医用システム、超高速フォトニクス、超高速時間分解分光、非線形光学 <b>【電気通信大学】</b>			

(山本佳世子)社会システム工学、空間情報科学、都市・地域計画学、GIS ビッグデータ、環境・防災  
(橋山智訓)知能情報学、ソフトコンピューティング、ヒューマンインタフェース・インタラクション  
(横井浩史)計測・制御、節電義手、節電センサー、サイバネティクス、臨床応用  
(岡田佳子)光工学、光エレクトロニクス、バイオエレクトロニクス、ナノフォトニクス

テキスト:特になし

参考書・参考資料等:特になし

学生に対する評価:ラボワーク準備等取り組み姿勢(計画書等)、達成成果(レポート、報告書等)等により総合的に評価する。